

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

ワークショップ 33	
企画名	患者ケアの質向上と医療者間コミュニケーションを劇的に向上させる看護師ポケットエコーの活用法と学習法
日時	2017年5月14日(日) 13:45～15:15
会場	第4会場 (サンポートホール高松 ホール棟 6F 61会議室)
企画責任者	並木 宏文 (公益社団法人 地域医療振興協会 与那国町診療所)
定員	72名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b></p> <p>パソコン機器が「デスクトップ→ノートパソコン→スマートフォン」と進歩し、日々生活で自然に使い分けられているように、エコーも「検査室の設置型→外来の移動式→ポケットエコー」と同じ道を辿った。つまり、ポケットエコーの目的は「その場で手軽にちょっと確認」である。薬事法上は電子血圧計と同じ分類のエコーは、既に看護師・薬剤師・鍼灸師・一般人にも使用される大衆医療機器となった。その中、Mirucoを代表とする超低価格ポケットエコーが登場し、エコー初心者でも即役立つ膀胱エコーの教育コース Pocket Echo Life Support (PELS) が開設され、看護師がポケットエコーの活用を通じて、患者ケアの質と医療者間のコミュニケーションを劇的に向上させ始めた。具体的には、膀胱エコーによる排尿管理(例:膀胱カテーテル管理、残尿確認による就寝前のトイレ誘導)を中心に、肺エコーによる誤嚥性肺炎の管理、頸静脈・下大静脈エコーによる体液管理、食道エコーによる経鼻胃管の確認など、看護ケアへの活用が進んでいる。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p><b>【パネルディスカッション】</b></p> <p>ポケットエコーを積極的に活用している医療者(医師 Dr 5名、看護師 Ns 5名、検査技師 Mt 1名)が発表する。</p> <p>小林只 Dr 「ポケットエコー総論 診断から判断へ」</p> <p>山口睦弘 Mt 「PELS 教育コース」</p> <p>上野美幸 Ns 「病棟での活用と課題: 医師と連携方法」</p> <p>平野貴大 Dr、岡村奈保子 Ns 「看護師のエコー活用を促す工夫」</p> <p>落合実 Ns 「都会の訪問看護ステーションでの活用: 遠隔地・医療機関との連携」</p> <p>並木宏文 Dr、大崎久代 Ns 「離島における看護師エコーの現状」</p> <p>紅谷浩之 Dr・里裕一 Ns 「エコーは多職種コミュニケーションツール」</p> <p>中野智記 Dr 「地域包括ケアシステム幸手モデルにおけるエコーの活用」</p> <p><b>【ハンズオン】</b></p> <p>講演後、Miruco と膀胱ファントムを使用したハンズオンを通じて会場と議論する。</p>	